

GCAサヴィアン
欧州ニュースレター 2014年5月
 Vol.4 イタリア

はじめに

今回は欧州第4位の経済規模を持つイタリア特集です。

2008年頃には金融・財政部門の自力改善が難しいヨーロッパ各国をまとめて表現するPIIGS（ポルトガル、アイルランド、イタリア、ギリシア、スペイン）という言葉が生まれましたが、イタリアはスペインと並びその経済規模の大きさゆえ、同国の金融・財政状態はユーロの存在自体を脅かす非常に深刻な問題として認識されるに至りました。

直近の状況に目を向けてみるに、実はイタリアのGDP比率財政赤字の水準はフランスやオランダよりも低く、ユーロ加盟国の安定成長協定である「対GDP比での財政赤字を3%以下」という基準は既にクリアしています。しかし、もう一つの安定成長協定である「政府の債務残高をGDP比60%以下にする」という基準については、イタリアの2013年の実績は当該基準を大幅に上回る132.6%であり（ユーロ加盟国の中ではギリシャに次いで2番目に高い水準。なお、日本は世界最高の243.2%）、政府債務を順調に消化していくためには一層の財政状態の改善が求められています。

日本では衣服・靴などのブランドで注目されることが多いイタリアですが、同国は歴史的に都市国家が集合して国家が形成された経緯を持つことから、北部の製造業など、エリア・分野で見れば優れた企業が多数存在します。言い換えれば、イタリアを国全体で捉えるだけでは、地方の優良企業の見落としにつながるリスクがあります。個人的には、ローマ帝国として歴史的に大きな影響を与えてきたイタリアの底力は、もう少し注目されても良いのではと思います。

今回は政治・経済的な面ではイタリアの都市国家を裏付けるデータなど、また、文化面では世界遺産やイタリア料理を取り上げてみました。お時間のある時にエスプレッソを飲みながらご高覧頂ければ幸いです。

GCAサヴィアン
フランクフルトオフィス
村井 慎

1. イタリア概況

実質GDP成長率
(2013年)

△1.9%

※ 2012年は△2.4%
※ EU28か国平均は+0.1%

消費者物価上昇率
(2013年)

+1.3%

※ 2012年は+3.3%
※ EU28か国平均は+1.5%

失業率
(2014年2月)

13.0%

※ 2012年は12.9%
※ EU28か国平均は10.6%

- 2012年より改善したとはいえ、2013年もマイナス成長となったイタリア。公共セクターの肥大化など構造的な問題を抱え、未だ欧州危機のダメージに苦しんでいます。政府は2014年の実質GDP成長率を1.0%と予測し、3年ぶりにプラス成長に転じることが期待されています。
- 2013年には2か月に渡る政治空白が生じるなど政治的混乱を経験しました。新政権が2014年2月22日に発足し、ここ2年半で4人目の首相となった民主党書記長のマッテオ・レンツィ氏は39歳で、首相としては史上最年少。平均年齢47歳と若い内閣を率いて、改革のスピードアップに挑みます。既に景気回復の各種減税策と、雇用創出のための労働規制の簡素化などの方針を矢継ぎ早に打ち出しています。
- 失業率は悪化の一途を辿っており、一年間で11.8%(2013年2月)から13.0%(2014年2月)に拡大しています。15歳～24歳の若年層の失業率は42.3%と深刻な状況が続いています。

2. イタリアM&A

日伊案件数
(2011 - 2013年)

34件

(うち31件は日本企業による
イタリア企業買収)

主な日伊案件
(2011 - 2013年)

- LIXILによるPermasteelisa SpA買収(2011年8月/630億円)
- 日本電信電話によるBuongiorno SpA買収(2012年5月/208億円)

ホットなセクター
(2013年)

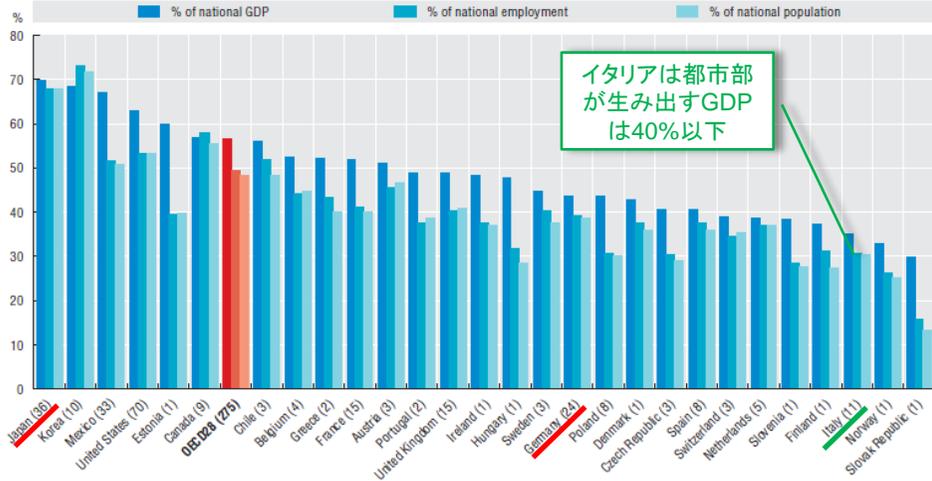
- インダストリアル(4件)
- エネルギー・電力(2件)

- 日伊クロスボーダー案件は、2011年 - 2013年の過去3年間で34件(内、日本企業によるイタリア企業買収案件は31件)発表されました。内訳をみれば、2013年11件、2012年11件、2011年12件となっており、イギリス、ドイツと比べて数は少ないものの、安定して毎年10件前後のM&Aが成立しています。
- 2011年、2012年はLIXILと日本電信電話による比較的金額規模の大きな案件が成立しました。2013年は金額が公表された100億円以上の案件はありませんでしたが、三井物産、日本通運、三菱商事、ナブテスコ、ナカニシ、伊藤忠丸紅鉄鋼、三菱電機、エンプラス、日立製作所などがイタリア企業を買収しています。
- ブランド衣料品が注目されがちなイタリアは、ドイツの陰に隠れますが実はインダストリアル分野での優良な企業が多い国です。特に北部イタリアの技術のある企業のM&Aは今後要注目です。

Italy

GCA Savvian

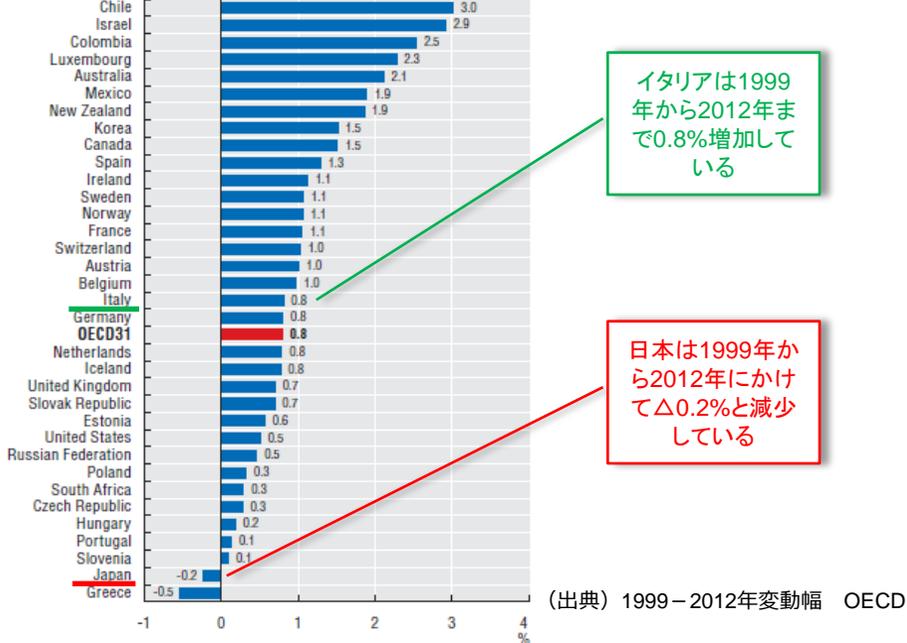
3. 都市部が生み出すGDPは40%以下



(出典) 2010年データ OECD

- 上記グラフは、大都市(人口50万人超)にGDP、就業人数、人口の何パーセントが集中しているかを示したグラフです。カッコ内の数字は人口50万人を超える都市の数を示しています。
- 日本は実に36以上の大都市を有し、GDP、就業人数、人口の約70%が都市部に集中する社会構造となっているのに対し、イタリアは集中度合いが40%を切っています。北部のミラノ、トリノ、ジェノバのいわゆる工業の三角地帯が経済の中心、ローマやフィレンツェが観光や政治の中心地ですが、南部は依然として農業を主産業としており、近代的発展の必要性が叫ばれています。
- ちなみに、第一回に特集した「究極の地方分権国家」であるドイツは大都市の数は24と多く、イタリアよりは都市部に産業が集中していることが分かります。
- イタリアの都市部のGDPについて、実はその半分はミラノから生み出されています。首都はローマですが、ミラノは金融、ファッション、工業製品でイタリアをリードしています。

4. 就業者数が減少しているのはイタリアではなく日本？



(出典) 1999-2012年変動幅 OECD

- 上記グラフは、就業者(勤労所得または自営所得を有し、月末1週間に1時間以上働いた人)の1999年から2012年の変動幅を示しています。
- 13%に高まった失業率の高止まり、南部を中心とした40%を超える若年層の失業率を考えればイタリアの就業者人口は大きく減少をしていると思われるかもしれませんが、1999年から2012年の推移で見れば、実は0.8%増加しています。一方で日本について見るに、0.2%減少という結果が出ています。
- この原因の一つには人口増加があります。イタリアの人口は1999年から2012年にかけて59.39→56.91百万人と4.4%増加していますが、これに対し、日本は127.61→126.35百万人と1.0%しか増加していません。
- GDP総額で見た場合、イタリアは1999年から2012年で5.4%しか増加していませんが、日本は11.4%増加しています。イタリアは効率性の改善が課題となっています。

5. 世界一の世界遺産登録数

順位	国	世界遺産登録数
1	Italy	49
2	China	45
3	Spain	44
4	France	38
5	Germany	38
6	Mexico	32
7	India	30
8	United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland	28
9	Russian Federation	25
10	United States of America	21
11	Australia	19
12	Brazil	19
13	Canada	17
14	Greece	17
15	Japan	17
16	Iran (Islamic Republic of)	16
17	Portugal	15
18	Sweden	15
19	Poland	14
20	Czech Republic	12

(出典) UNESCO Number of World Heritage Properties by region

- ローマ帝国の中心であっただけに、イタリアは数多くの世界遺産を誇ります。しかし、コロッセオ、トレビの泉、スペイン広場・・・ローマは非常に多くの見所を保有しているにもかかわらず、観光客数でパリに大きく引き離されています（EU内ではパリ、ロンドンに次ぐ第三位）。これにはイタリア政府の招致活動が不十分という声もあるようです。
- イタリアへの海外からの観光客数については、イタリアの国立統計研究所によればドイツ人が圧倒的多数で一位、続いてアメリカ人となっています。

6. 「イタリア料理」というものは存在しない？

《北西部》

ゴルゴンゾーラやマスカルポーネといったチーズが有名で、乳製品を使った伝統料理多数。ピエモンテからロンバルディアにかけてはイタリア唯一の米の産地。山がちな地形が特徴で、白トリュフの産地としても有名。

《中部》

トスカーナはワインやオリーブの産地として有名。プロシュートやパルミジャーノ・レッジャーノチーズ、バルサミコ酢を生み出したエリア。ローマでは肉料理がポピュラー。

《シチリア》

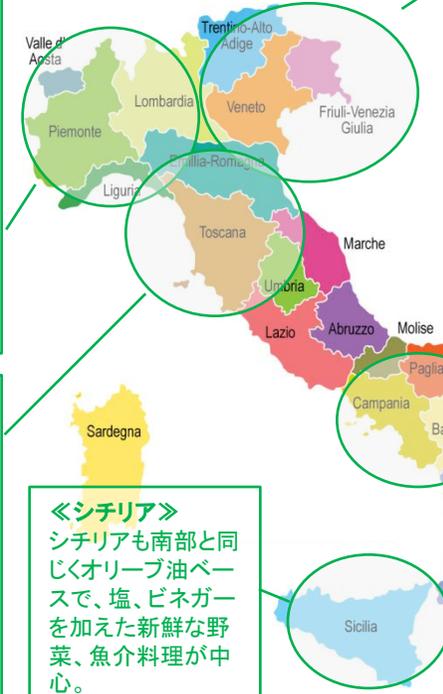
シチリアも南部と同じくオリーブ油ベースで、塩、ピネガーを加えた新鮮な野菜、魚介料理が中心。

《北東部》

アドリア海に面したヴェネツィア(州都はヴェネツィア)は魚介類がメイン。イカ墨料理も有名。香辛料を用いた料理が食べられているのも特徴の一つ。

《南部》

日差しも強く乾燥した南部は、ナポリ料理に代表されるようにオリーブ油とトマトをたっぷりを使用した魚介ベースの料理が中心。日本でもお馴染みのドライパスタ発祥の地は南部。

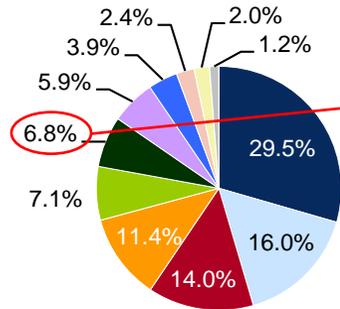


- 国土の大半を海に囲まれ、山も多く、かつ南北にも長いといった地理的特徴により、イタリアにはイタリア料理は無いと言われるくらい、豊富な種類の料理が存在します。
- イタリアの料理とオリーブオイルは切っても切れない関係にあり、生産量はスペインに次ぐ世界第二位です（規模的にはスペインはイタリアの3倍）。
- 今年4月に投資ファンドのCVCがスペインの世界のオリーブオイル最大手のDeoleoと買収交渉をしていることが明らかになりました。この案件には、オリーブオイルライバル国のイタリアの政府系ファンドもプロセスに参加していることが話題になりました。

Italy

GCA Savvian

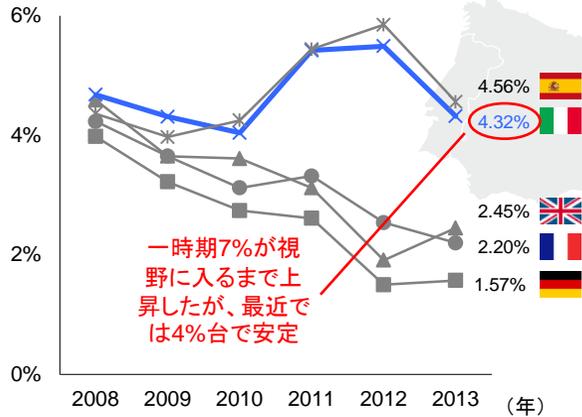
産業構造 (2013年度)



公共セクターが他国に比して大きく非効率なことが課題 (比較: 独は5.5%)

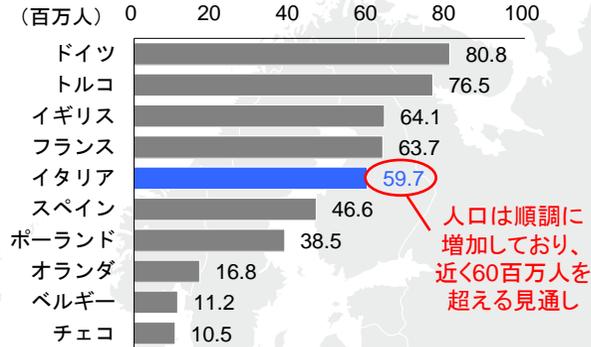
- 金融、不動産業
- 教育、医療、社会福祉
- 運輸、通信業
- 建設業
- 電力、ガス、水道
- その他 (一般消費者)
- 製造業
- 卸売・小売業
- 公務、防衛、社会保障
- ホテル、レストラン
- 農林水産業

10年国債金利



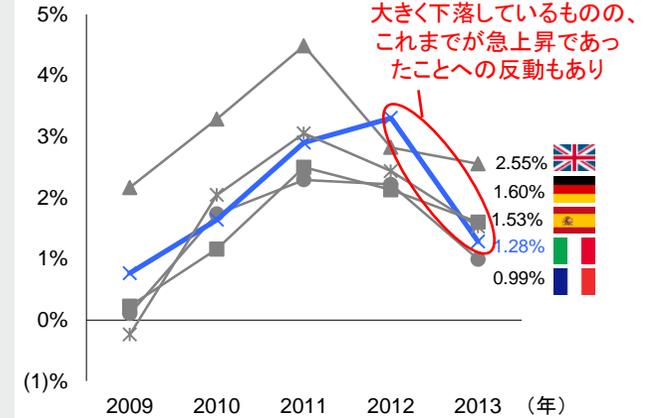
一時期7%が視野に入るまで上昇したが、最近では4%台で安定

人口 (2013年度)



人口は順調に増加しており、近く60百万人を超える見通し

インフレ率



大きく下落しているものの、これまでが急上昇であったことへの反動もあり

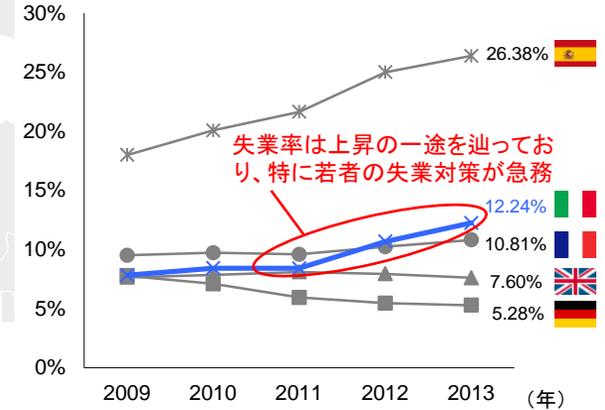
規模は大きくはないものの、グローバルに展開する多くのブランドが存在

FIAT-CHRYSLER、Juventus (ユベントス)、Cinzano (チンザノ) 等に投資する投資会社

イタリアのグローバル企業



失業率

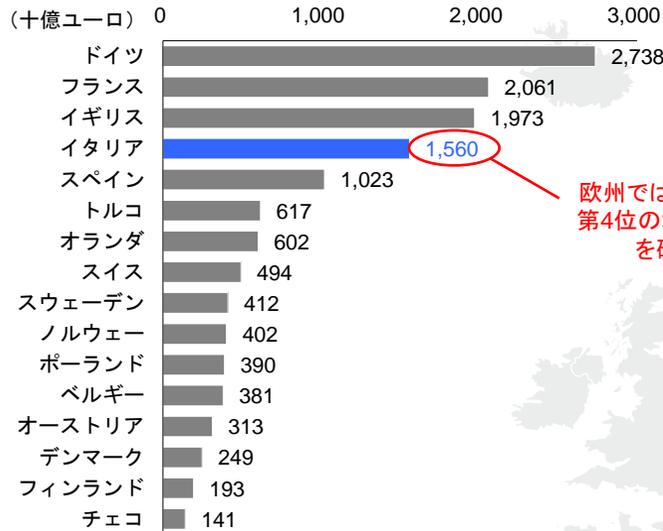


失業率は上昇の一途を辿っており、特に若者の失業対策が急務

Italy

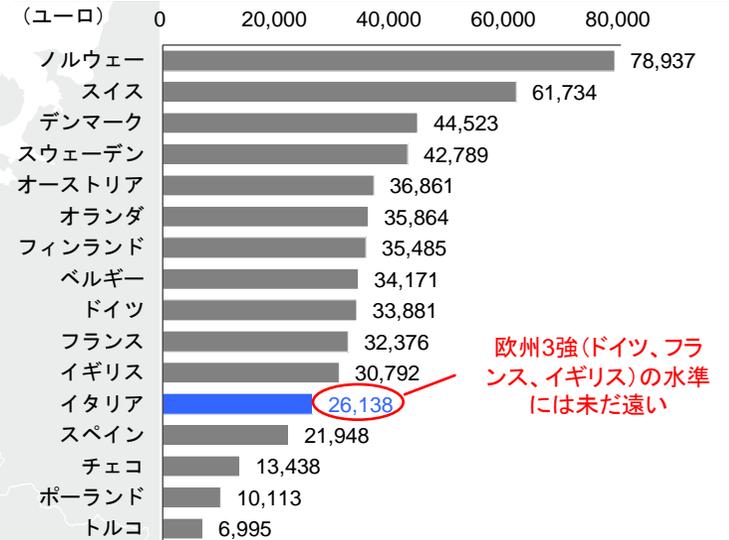
GCA Savvian

GDP (2013年度)



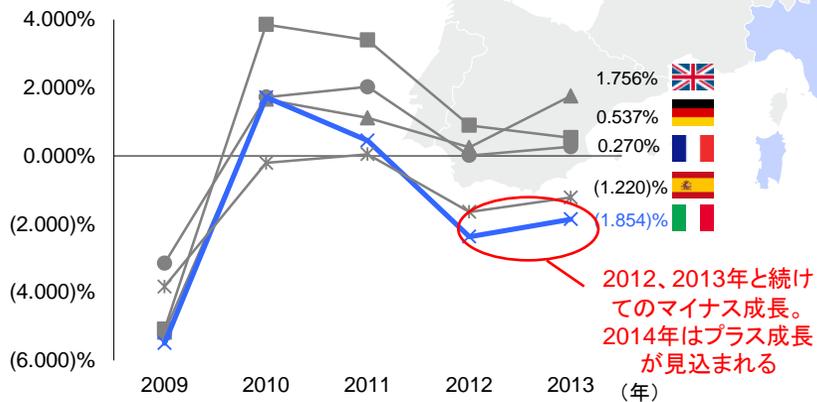
欧州では安定した第4位のポジションを確保

一人当たりGDP (2012年度)



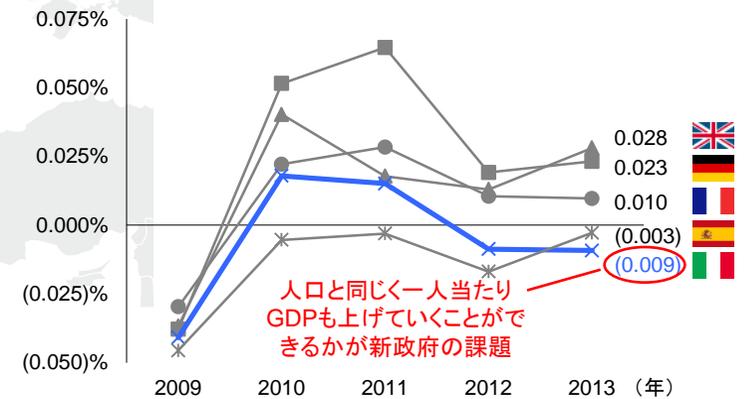
欧州3強(ドイツ、フランス、イギリス)の水準には未だ遠い

GDP伸び率



2012、2013年と続けてのマイナス成長。2014年はプラス成長が見込まれる

一人当たりGDP伸び率



人口と同じく一人当たりGDPも上げていくことができるかが新政府の課題

お問い合わせ先:



村井 慎 / Shin Murai

Director

Direct (Germany): +49-69-170099-99

Mobile (Germany): +49-172-6324998

Email: smurai@gcakk.com

GCA Savvian Corporation - Frankfurt

OpernTurm - Bockenheimer Landstraße 2-4, 60306 Frankfurt am Main,
Deutschland

<http://www.gcasavvian.com/>